

はじめに

近年、日本で許可されたワクチンは急激に増え、数の上では海外とのワクチンギャップは解消されてきた。一方でワクチンに関する基本的な知識や接種に必要な技術は大学のカリキュラムにほとんど含まれていない。大半の医師は先輩からもきちんと伝授されることなく見よう見まねの我流で済ませている。

0歳の乳児にB型肝炎・ロタウイルス・ヒブ・小児用肺炎球菌・4種混合・BCGなど盛りだくさんの種類をこなすにはそれなりの知識と技術を駆使する工夫が必要になる。また年長児十代女性には失神や疼痛についての理解も必要となるし、また海外への渡航や帰国子女に対しても多くの知識が必要とされる。

日本小児科医会は開業小児科医を中心に構成されており、現場で数多くの知識や経験を蓄積してきている。接種現場で役に立つビジュアルなマニュアル本ができないものかと、予防接種委員会で検討した結果、多くの会員の協力を得て、できるだけシンプルでかつ見て理解できるDVDによるマニュアルを作成することができた。

大学卒業後の研修医や現場で実際に接種されている小児科医あるいは他科の医師さらには予防接種を担当する看護師にも知識と技術を磨いてもらうことを念頭に広く活用されることを期待する。

2013年8月
日本小児科医会予防接種委員会

水痘やB型肝炎が定期接種となり、定期化が実現していないのはロタウイルスとムンプスになってきた。

今、HPVが中断して3年半にもなる。多数の学会が再開を要請しているにもかかわらず、未だに再開の目処はたっていない。先進国では偽医学や科学的な根拠のないワクチン反対運動がマスコミを利用して拡大しつつあり、今後は排除可能なはずのVPDが再燃しかねない。接種医は日々知識を更新し、親への丁寧な情報提供と指導を心がけて欲しい。

また海外との交流が一層盛んになり、感染症には国境がなくなってきた。人類が地球上から克服できた感染症は「天然痘」のみであり、清潔な水が確保できれば排除できるのが「メジナ虫症」である。内戦が終息すれば排除できるのが「ポリオ」であるが、見通しは必ずしも明るくない。その他の感染症は排除の目処はまったく立たない。油断すれば再興感染症の再流行を許すことになる。

内外の状況に絶えず目配りが必要な今日であることを銘記すべきである。

2017年3月
日本小児科医会公衆衛生委員会